

オープンキャンパス2002開催

夏真っ盛りの8月3日、毎年恒例のオープンキャンパスが開かれた。近年、オープンキャンパスは、受験生が大学を選択する材料として大きな意味をもつようになってきている。このため、本学のオープンキャンパスも、今年は従来のやり方に改良を加えリニューアルを試みた。そこで、まずその改良点を紹介してみよう。

第一に、企画・運営主体が、昨年度までの入試委員会から、オープンキャンパス企画委員会に変わった。この委員会は、学生部長を委員長とし、図書館長、広報・入試・就職・産文研の各委員会および大学院の代表、それに事務局次長と学生部・教務部の職員からなる組織である。文字通り、全学態勢でオープンキャンパスの企画・運営にあたる



組織ができあがったことになる。

第二は、実施メニューの拡充である。昨年実施した大学紹介、模擬海外研修(英・中・韓3コース)、コンピュータ体験、学内施設ツアーに加えて、今年は模擬講義、大学院(入試説明会/研究発表)、産業文化研究所(地域研究講演/施設案内)、図書館ツアーの4メニューを追加した。以上のメニューのうち、コンピュータ体験には昨年の模擬実習に加えて、新たに実習室の自由開放を組み入れた。また、大学院のメニューは、去年まで大学院が独自に実施していた説明会と研究発表会を、オープンキャンパスに組み込んだもので、産文研メニューと図書館ツアーは全く新たな試みである。なお、模擬講義は一昨年まで例年実施しながら、昨年は休止していたもの。

第三は、実施形式面における工夫である。まず、大学側が参加者に既定のメニューを割り当て、参加者にほとんどメニュー選択の自由がなかった昨年までの方式を改め、タイムテーブルにそって参加者が好みのメニューを好みの時間に選択できるようにした。また、参加者の対象を高校生だけではなく一般市民にまで広げ、地域に密着した市大の姿をよりアピールするように努めた。このほか、「学食」の雰囲気味わってもらうため、参加者が生協食堂で昼食をとれるようにしたのも、実施形式面におけるセールスポ

イントの一つであった。

さて、以上のように工夫を凝らしたオープンキャンパスだが、その成果はどうだったのだろうか。まず、参加者数は288人(前年比59人増)であった。このなかには、昨年まで別個に開いていた大学院メニューの参加者32人が含まれているから、昨年度に比べて実増27人ということになる。また、288人のうち高校生の参加者は212人(前年比14人増)、一般市民の参加者は23人となっている。高校生の参加者を県別にみると、山口が154人(うち、下関市内122人)で、次いで上位は福岡31人、広島8人、そして島根・愛媛・宮崎・岡山の各4人と続く。全体で下関市以外から90人、山口県外からは58人の高校生がオープンキャンパスに来たことになる。

今年は、オープンキャンパスの形式・内容をリニューアルしたこともあって、広報活動にかなりの力を注いだのだが、結果として高校生の参加者数は昨年に比べて思ったほど伸びなかった。また、一般市民に対しても、市内各支所にポスターを貼るなどしたのだが、参加者が多かったとはいえない。来年のオープンキャンパスに向け、広報活動を再検討する必要があるだろう。

しかし、参加者に対するアンケート調査によると、今回のオープンキャンパスのメニューはおおむね好評だったようだ。「(模擬講義の)例えがとてもしっかりと、話の中に引き込まれました。とても楽しかったです」(高1女子)、「表計算で色々なことができるのを知って感心した」(高3女子)、「ホームステイの様子など面白く興味深い内容で良かったです」(保護者)、「色々なメニューがあってどれに行けばいいか戸惑ったが、経験できないようなことばかりだったので、とても貴重な時間を過ごさせてもらった」(高3男子)、「他のオープンキャンパスに行ったのですが……すごく退屈でした。だから今度下関のオープンキャンパスに行くときは期待とかしないでおうと思っていました。ですが実際に来てみると、全体説明の時から先生方の熱気というかすごかったです。ちょっと感動しました」(高2女子)等々は、そのほんの一例である。

ただし、残された問題もかなりある。例えば、一般市民に参加を呼びかけながら、一般の方々の興味をそそるメニューが少なかった点である。「市大の独自性がみられない」という、アンケートに答えた一般参加者の指摘は、この点を突いていると思える。また、高校生のなかには、模擬講義・模擬海外研修・コンピュータ実習などのメニューに参加したがいらない者が結構いた。彼らは、むしろ在学生との触れ合いをもっと望んでいたようだ。これらの点も含め、今後学内でオープンキャンパスのあり方につき議論が深まることを望みたい。(文責・オープンキャンパス企画委員・金子肇)



2003年度入試の概要

◆推薦入学

○全国推薦

2002年11月23日(土)小論文

○地域推薦

2002年11月23日(土)小論文

◆特別選抜

○帰国子女特別選抜

2002年11月23日(土)小論文(日本語による)/面接

○社会人特別選抜

2002年11月23日(土)小論文/面接

○中国引揚者等子女特別選抜

2003年1月25日(土)小論文(日本語による)/面接

○外国人留学生

2003年1月25日(土)小論文(日本語による)/面接

◆一般選抜

○前期日程 2003年2月25日(火) 下関・大阪

前期日程試験の実施教科・科目及び配点

学 科	大学入試センター試験	個別学力 検 査	配点 合 計
経済 学 科	・国語(「国語Ⅰ・国語Ⅱ」のみ)、地 理歴史、公民、数学、理科、外国 語から2科目(2教科)採用	小論文	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算 する。 1. 最も得点の高い科目をさらに300 点満点に換算し採用する。 2. 次に得点の高い科目を 200点満点のまま採用する。 300点+200点	300点	
国際 商 学 科	・外国語(必須) ・国語(「国語Ⅰ・国語Ⅱ」のみ)、地 理歴史、公民、数学、理科から1 科目採用	小論文	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 1. 外国語を300点満点に換算し採 用する。 2. 外国語以外のすべての科目を200 点満点に換算し、最も得点の高 い科目を採用する。 300点(外国語)+200点	300点	

○公立大学中期日程(IBC日程)

2003年3月8日(土) 下関・大阪・福岡

公立大学中期日程試験の実施教科・科目及び配点

学 科	大学入試センター試験	個別学力 検 査	配点 合 計
経済 学 科	・国語(「国語Ⅰ・国語Ⅱ」のみ)、地 理歴史、公民、数学、理科、外国 語から3科目(3教科)採用	外国語(英 語Ⅰ・英語 Ⅱ・リーディ ング・ライティ ング)	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算 し、得点の高い順に3科目(3教 科)を採用する。 200点×3	200点	
国際 商 学 科	・国語(「国語Ⅰ・国語Ⅱ」のみ)、地 理歴史、公民、数学、理科、外国 語から3科目(3教科)採用 ※ただし、この3教科の中に数学か 外国語のどちらかを含むこと。	外国語(英 語Ⅰ・英語 Ⅱ・リーディ ング・ライティ ング)	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算 する。 1. 数学か外国語のうち得点の高い 方の科目を採用する。 2. 1. で採用した科目以外の科目 のうち得点の高い順に2科目(2 教科)を採用する。 200点×3	200点	

※前期日程、公立大学中期日程(IBC日程)とも「国語Ⅰ」は選択科目から除く。地理歴史と公民からは1科目のみ。

◆編入学 2002年11月23日(土)小論文/面接

大学院入試情報

*2003年度入学試験(第一次)

大学院経済学研究科では、下記の要領で2003年度入学試験(第一次)を実施する。

日 時 2002年10月5日(土) 午前9時より

募 集 経済社会システム専攻5名
国際ビジネスコミュニケーション専攻5名

選考方法 一般選抜・社会人選抜・外国人留学生選抜

今回より、研究指導科目が新たに4分野増加し、17分野となった。17分野は次の通りである。理論
経済・社会政策・労働経済・地域産業・世界経済史・経済地理・都市環境・地方自治法・経営管理・
人事労務管理・日朝関係史・開発経済・国際コミュニケーション・金融経済・経営情報システム・西
洋思想・現代中国語。

*特別選抜試験の実施

前回に続き、特別選抜試験を実施する。これは出身大学や所属自治体・企業の推薦を受けた場合、書類選考ない
し面接により可否を判定するものである。

①交流・協定校特別選抜(青島大・東義大・グリフィス大・クイーンズランド大・ボアジチ大卒業生対象)

②派遣社会人特別選抜(地方自治体・企業からの推薦)

「世界の厨房から」開催

国際交流会ともだち部長 松浦淳一郎

6月29日、私たち国際交流会ともだちの主催で、例年行っている在学中の留学生の母国の料理を通じて、国際交流を図るというイベント「世界の厨房から」を開催しました。

今回は、水ギョーザ（中国）、チヂミ（韓国）、グリーンカレー（タイ）、ミジュベル（トルコ）、ソーセージステーキとポテトサラダ（オーストラリア）、白玉だんご（日本）の6カ国の料理を用意し、昨年の100名を上回る140名の来場者がおとずれ、料理があったという間に無くなるという盛況ぶりでした。

イベントとして、よさこいダンス同好会による踊りの披露や、留学生の女の子達による日本舞踊の発表もあり、緊張しながらも、非常に上手に踊っていました。

このような活動を通して、地域社会とより密な関係を築きながら、下関市立大学の良さをもっと知ってもらいたいと考えています。9月1日には、生野神社の八朔祭りにも留学生2人が参加し、大学内の活動から地域の活動まで参加して行こうと、がんばっています。

11月3日(日)の大学祭では、他大学の留学生にも参加してもらい、「日本語弁論大会」を開催します。短期間の中で感じたことをスピーチという形で留学生に発表していただくので、ぜひご来場ください。



《第19回市民大学》

◎語学とコンピュータ講座

会場：下関市立大学

○英会話中級（定員40名）

講師：R.ピーン（下関市立大学常勤嘱託講師）

日時：9月26日～12月12日（全12回）

毎週木曜日 午後6時30分～8時

○中国語会話中級（定員40名）

講師：孟桂蘭（下関市立大学常勤嘱託講師）

日時：9月20日～12月13日（全12回）

毎週金曜日 午後6時30分～8時

テキスト：馬真他『北京留学』光生館

○朝鮮語会話初級（定員40名）

講師：李亮（下関市立大学常勤嘱託講師）

日時：9月25日～12月11日（全12回）

毎週水曜日 午後6時30分～8時

○初心者のためのパソコン入門（定員40名）

～キーボードの練習からインターネットの利用まで～

講師：土屋敏夫（下関市立大学助教授）

日時：9月26日～11月14日（全8回）

毎週木曜日 午後6時30分～8時

◎連続テーマ講座：「地域と大学」

下関は個性の違う四大（四年制大学）が四つもあるユニークな街だ。大学環境の変化のなかでそれぞれが難問を抱えている。下関市は学園都市をスローガンにしている。市政のなかに大学をどう位置付けるのか重要課題だ。

四つの四大は地域に何を貢献するのか？そのための条件は何か？市は大学に何を期待しているのか？というサポートを考えているのか？さて肝心の市民のあなたはどうか考えますか？連続8回の講演会と最後の第9回のシンポジウムがヒントです。

会場：下関市立大学

時間：[講演会] 午後6時30分～8時

[シンポジウム] 午後2時～4時

[講演会]

第1回10月16日(水) 下山 房雄（下関市立大学学長）

第2回10月18日(金) 森田 兼吉（梅光学院大学学長）

第3回10月21日(月) 三本菅善昭（水産大学校校長）

第4回10月23日(水) 義平 邦利（東亜大学副学長）

第5回10月25日(金) 田中慎一郎（北九州市立大学前学長）

第6回10月28日(月) 江島 潔（下関市長）

第7回10月30日(水) 有吉 宏樹（財・山口経済研究所常務理事）

第8回11月1日(金) 古賀 哲矢（北九州市産業学術振興局長）

[シンポジウム]

第9回11月3日(日)「地域と大学行政」

（パネリストは各回講演者）

インターンシップ（就業体験学習）事始

インターンシップ委員会委員長 川本 忠雄

昨年、インターンシップの試行（受入先、下関市役所産業経済部）を成功裏に終え、本年度は本格的に委員会を立ち上げ、正式の講義科目（2単位）として実行した。

本学のインターンシップの特徴は、手作りできめ細かい（それ故、濃度の高い）実習を行う点にある。まず本学教職員が、初春より、インターンシップの意義を各事業体に説明して廻り、学生受入先の開拓を実施していった。受入事業体が決定すると、受入先担当者と実施スケジュールの具体的な検討を行い、事前のプレ講習も行った。派遣学生も数次に渡って、書類選考と同時に綿密な面接選考を行って、志望動機と明確な学生の選考に努めた。実施期間中は、最低1回は研修先に教職員が訪問し、学生への励ましと同時に、実施の実態を把握することに努めた。実施後は、学生の詳細な実施報告と受入事業体の評価をまとめて、実施報告集を作成し、研修学生が全員報告する公開報告会を開催する。そしてその一連の課程を実施し終えた学生に対してのみ、単位の認定を行っていく。



下関市役所農政課にて

さて下記（受入先、人数）の通り、8月下旬の1週間（一部の学生は、2週間～4週間）、インターンシップを実施した。参加学生にとって、全力投入の意義深い濃密な1週間だった様だ。御世話をされた各受入先の方々の真摯な御労苦に心より感謝したいと思う。

実施終了後の学生の報告書を読むと、学生の充実感、感動、成長そして意識の向上がハッキリと読みとれる。また受入事業体の方々の好評価も得ている。学生諸君、本当に良く頑張った。ある学生は「こんなに充実した1週間は今までなかった」と述べ、またある学生は、「本当に勉強しなければいけない、という焦りにも似た気持ちが出てきた」と言っている。職業選択を考える上でも、とても参考になった様である。

来年度も、今年度以上に、量的にも質的にも充実させた計画で、本研修を実施していきたい。各受入先の更なる御鞭撻と御協力を御願い申し上げる。



武久病院にて

このインターンシップ実施は、全国的にますます強まっていっている傾向にある。学生諸君は積極的にチャレンジしてみよう。動かなければ何事も始まらない。

2002年度インターンシップの受入事業体と参加学生数（10事業体、27名）

ジェトロ山口（1名）、愛グループ（3名）、イズミ（2名）、下関商業開発（2名）、下関信用金庫（2名）、山口新聞（2名）、下関商工会議所（2名）、武久病院（4名）、公営施設管理公社（2名）、下関市役所（7名／観光振興課、農林整備課、水産課、商工振興課、観光施設課、農政課、卸売市場）。

産業文化研究所の共同研究

関門地域の国際研究と金融研究はじまる

前附属産業文化研究所所長 吉津 直樹

1994年から継続的に行なわれている本学と北九州市立大学との共同研究の成果をとりまとめた報告書が刊行された。両大学からなる関門地域共同研究会は2001～2002年度の第5次プロジェクトとして、関門地域の国際研究と関門地域の金融研究を並行して行なうこととした。2001年度の具体的なテーマは「関門地域・韓国間の経済協力とインフラ整備に関する研究」と「関門地域の金融構造に関する研究」である。この成果は『関門地域研究』Vol.11（2002）として2002年3月に発行された。なお、報告会が7月26日、海峡メッセ下関において開催された。また、この共同研究の成果は学生に対しても本学の講義「関門地域論」として活用されている。

報告書の内容は以下の通りである。

巻頭 はじめに

第1部 関門地域・韓国間の経済協力とインフラ整備に関する研究

I 韓国における日系企業の活動状況と日本企業・日系企業からみた韓国（北九州市立大・池田 潔）

II 関門地域・韓国間の経済交流の制度的枠組み（北九州市立大・尹 明憲）

III 日韓半導体産業の新しい競争と協調
～半導体製造装置部門とデバイス部門との連携を中心に～（下関市立大・関野秀明）

IV IT産業の人材現況と両地域の経済補完性
～関門地域と韓国南地域を対象にして：韓国の情報通信関連人材の現況～（一次報告）（下関市立大非常勤・崔 東術）

V グローバル化と地域経済
～関門地域・韓国間における貿易と経済交流～（下関市立大大学院・宮田 高）

VI 韓国の交通インフラ整備（下関市立大・小林英治）

第2部 関門地域の金融構造に関する研究

I 関門地域金融の展開（北九州市立大・迎 由理男）

II 財務状況から見た関門都市圏「地方銀行」の実態（西南学院大・西田顕生）

III 財務状況から見た関門都市圏「信用金庫」の実態
～北九州市4信用金庫を中心として～（北九州市立大・木村温人）

IV 2001年全国「地域通貨」統計調査報告
～「地域通貨」とコミュニティ再生～（下関市立大・道盛誠一、下関市役所・三浦大二郎）

韓国語学研修に参加して

国際商学科3年 嶋本 厚子

語学を学ぶには、まずその国を好きになることだと今回の語学研修は楽しかった。

下関から釜山フェリーで釜山へ。釜山では下関市大の姉妹校である東義大学校を訪問した。市大からの派遣留学生



東義大学校にて

が出迎えてくれ、大学校内のあちこち、留学生寮を案内してくれた。彼等は韓国での学生生活をいきいきと楽しんでいる

様子だった。釜山駅からセマウル号でソウルへ。ソウルは大都市で、地下鉄が網の目状に広がっている。人々はパワフルだ。印象的だったのはコンピュータが駅などにたくさんあり、自由に使えることだ。韓国はIT化が進んでいると聞いていたが、そのことだけでも納得した。翌日は語学学校に入学。面接と能力試験でクラス分けされた。私は高校生から82才までの8名のクラスに入った。授業はすべてテンポの良い韓国語でおこなわれ、ゲームなども盛り込みながら楽しいものだった。夢中になり懸命についていった。50分×4の授業。その他韓国文化の特講や、料理講習、「ナンタ」の舞台も見学した。戦争記念館、景福宮、ソウルタワー、鐘路通りの散歩など。「郵便局はどこですか？」と尋ねながら郵便局をさがしあて、「日本に絵葉書を送りたいのですが、切手はいくらですか？」など実際に大学で習った言葉を使った。語学研修はそういうことも大きな経験だ。語学学校まで地下鉄を乗り換えていったおかげで、地下鉄の乗り方がわかった。何よりも収穫だったのは、もっと韓国語を話したいというエネルギーを持ったことだ。まだまだ韓国に接したいと心を残しながら飛行機で帰国した。

日中国交正常化30周年の金の掛け橋として

国際商学科3年 綿谷 修孝

今回の語学研修に参加できた事は多くの面で自分にとってプラスとなり、今までの価値観が変わりました。自分が想像していた中国と違っていた事、それによって中国に対する興味が湧いてきた事、将来像の変化等様々な面に影響



万里の長城にて

を与えてくれました。今回の語学研修が自分のこれからの人生を飛躍させるきっかけになったことは間違いありません。これをきっかけに、日々持続した努力を發揮し、目標に向かっていきます。

経済学科3年 藤井 亮光

出発前、私の胸は不安でいっぱいでした。言葉の通じない土地で3週間も生活できるのだろうか、授業のレベルについていけるのだろうか、そんなことばかり考えていました。しかし、いざ行ってみると、中国の方々はとても優しく親切で、授業もわかりやすく、とても快適な日々を過ごすことが出来ました。この人達とずっと普通に会話できるようになりたいと思いました。私の胸は今、中国語に対するやる気でいっぱいです。

経済学科4年 岡 雅之

一日中、中国語を勉強していたわけではありません。留学の最大の成果はそこだと思います。街で人と語り、笑い、名残を惜しむ。それが「異国の地」でのより良い経験だと思います。私にとって今回の語学研修は二度目の経験。そこで出会った人達との関わりがその「経験」の全てだと言っても良いでしょう。「出会う」という事は、ただ会うという事ではありません。言葉を交わし、想いを交わし、自分自身を交わす事。今回の語学研修はそんな事を感じさせてくれたように思います。中国語という媒体を使って違う国の人達と交わる。それは日本だけでは決して味わえぬ感動を与えてくれました。

カナダ外国研修に参加して

経済学科3年 手島 さやか

私は7月6日から1ヶ月間、カナダの東端にあるハリファックスという小さな町に外国研修に行ってきた。市大から参加した学生は全部で7人で、語学学校の近くにそれぞれホームステイをすることになりました。私が特に心に残っていることは、やはりこの1ヶ月間の殆どを過ごした学校とホストファミリーのことです。



ハリファックスのホームステイ先にて

まず私たちが通っていたILJという学校は入学するときにテストを受け、レベル別に生徒を12、3人のクラスに分けていました。私のクラスは、中国、韓国、サウジアラビア、フランスなど様々な国の生徒がいて、みんな英語だけではなく他の外国語を学ぶことにも興味を持っていました。他国の生徒は、文法や発音が間違っていてとにかく積極的に質問や意見を言い、自己主張がとても強いと感じました。そんな中私達は最初、間違いを恐れたり、みんなの喋るスピードの速さに気後れしたりとあまり発言することが出来ませんでした。次第に英語に慣れてきて、授業の楽しさが分かるようになりました。

また私を受け入れてくれたホストファミリーは定年退職をした夫婦でした。学校から帰るといつも家にいてくれて、夜は眠くなるまでずっと会話をして過ごしました。彼らは私の悪いこともはっきりと言い、私を本当の娘のように接してくれてとても居心地が良かったです。

私はこの1ヶ月間、貴重で夢のような体験が出来ました。いろんな国の人々とふれ合い、自己主張の大切さを知り、英語だけでなく、自分自身の考え方も成長できたと思います。機会があればまたハリファックスに行きたいです。

イングランド便り

社会政策論担当教授 堀内 隆治

イギリス便りとするところをイングランド便りとした。ワールドカップのベッカムにあやかりたいわけではない。北アイルランド(連合王国)を旅して、イギリスという国はないかもしれないと痛切に感じている。加えて、スコットランドは議院を設置して、ますます自立度を高めており、福祉関係では連合王国全体の行政府はない。だから、私はイングランドの福祉を勉強している。

そのイングランドの「ヘソ」と言われるレスター(Leicester)に5ヶ月住んでいる。住めば都というより、住めば住むほどいい街である。レスター市は人口30万、この間、人口は増加している。環境都市として評価されているだけあって、市街は比較的良好整備され、身近な公園は景観を豊かに、生活に潤いをもたらしている(ごみの分別がラフなとボイ捨ては酷いが)。レスター市内から郊外に抜けると昔の村がそのまま残っている。また残す努力をしている。村には教会とパブと郵便局が必ずある。

また、レスターは多民族・多文化都市である。人口の3割が非白人で26%がインド人である。ある通りにはインド人街、ある通りにはムスリム街であって、私の良き友人ベンパー(Dr.K.Owusu-Bempah, School of Social WorkのReader、人種差別の心理学、ガーナ出身)はボンベイ通り、アラブ通りといって喜んでいる。パーミングムと比較されることもあるが、レスターは比較的、静穏で、多文化の受容度が高いようである。大学もさまざまな民族に彩られていて、最近黒い衣装のムスリムの女性が少し目立つ気がする。



そのベンパーの助力のお陰で、レスター大学のSchool of Social Work(修士課程だけの大学院でソーシャルワーカーの養成を主にしている)で勉強している。イングランドは1990年にNHS & Community Care Act(国民保健サービス及びコミュニティケア法)を制定して、地域福祉の本格的取り組みを始めたが、レスターの実施結果と現状を検証したいと調査している。思いの外、90年代後半からの(労働党政権への移行もあって)変化が大きく、英語の壁とあわせて調査は難渋している。つい最近もケアホームの施設名簿の入手に時間を取られたが、「ドラフト」という但し書きが付いた名簿であった。National Care Standard Act(全国ケア基準法)が2000年に制定され、新設された民間機関のNational Care Standard Commission(全国ケア基準事務局)による登録業務がやっと完了した段階である。どうしても欲しいホームケアの業者名簿は登録が済んでおらず、帰国までに入手できそうにない。それでも、こちらの人の口癖ではないが、心からレスターの生活をエンジョイしている。(写真は寮の8階から写した大学周辺の街並み)

名実ともに一衣帯水

韓国経済論担当非常勤講師 李 海 珠
(釜山大学名誉教授)

私が韓国経済論の非常勤講師として初めて夏季集中講義をしたのは1987年7月のことである。夏の暑い陽射しが釜山港の岸壁を照らしつけているなか、関釜フェリーの船上でだんだん遠のいてゆく釜山港を眺めながら「連絡船は出てゆく」というその昔、張世貞が歌って庶民大衆の胸を熱くしたエレジーをわれわれが口ずさんでいたことを今も思い出す。この歌は戦後、日本でも「連絡船の唄」と改題され菅原都々子さんが歌ってヒットしたこともある。戦前植民地時代の韓国農民が土地を奪われ流浪の道をたどらねばならなかったその境遇と、終戦によって朝鮮半島および満州に進出していた日本人が釜山港を離れてゆく社会的背景は違っても、いつまた会えるとも知れない愛しい人々を後に荒波千里を超えてゆく悲しさは同じくエレジーたる要素を含んでいるといえよう。私は授業に活気を与えるため毎年集中講義のとき、この唄の歴史性とエレジーたる所以を解説し、学生を前に最初の1節は韓国語で2節は日本語で歌っている。

振り返ってみれば、過去16年間、学術センターとB講義棟、厚生会館の新設をはじめ大学院の開設など市の教育環境は大きく改善されている。なかでも教室に冷房が入るようになったことは私にとって皮膚で感じる一番大きな変化である。このような着実な発展は木下、大屋、下山学長に続く歴代学長と教員諸先生方の努力の結実であると思われる。

はじめて集中講義をしたとき、私はこの大学の芳名録に次のような易経の一句節を引用して書いた。〈二人同心 其利断金 同心之言 其臭如蘭〉。即ち「二人心を同じくすれば、其の鋭きこと金を断つ。同心の言は、其のかおり蘭の如し」という意味である。人間関係はもちろん国際協力関係もこのようになりたいと願いこのように書いたのである。

今年は韓国と日本がワールドカップを共同開催し世界の注目を浴びながら、両国の関係はもっと緊密化している。今は「近くで遠い国」ではなく、名実ともに一衣帯水の「近くで近い国」であることを実感するようになったと思われる。



お知らせ 2001年度国際交流白書刊行

8月に本学から『2001年度下関市立大学における国際交流の実情について』(国際交流白書)が刊行された。国際交流に力を入れている本学では、入ってくる留学生、出かけていく留学生ともに年を追って増加している。このような状況を背景に本学の国際交流の実態をまとめたものがこの白書である。図書館にも置いてあります。多くの人が読まれることを希望します。

2002年東京の集い

就職委員長 佐々 由宇

去る7月6日(土)に、東京馬関会主催の2002年東京の集いが開催されました。今年は本学が4年制大学に昇格してちょうど40周年ということもあり、全国から同窓生が集まり盛大に開催されました。出席者は北は山形から南は宮崎までの、総勢138名の参加者でした。

記念大会ということもあり、江島瀬下関市長も来賓として挨拶されたほか、本学からも下山学長、佐々就職委員長の2名が出席し大学の現状紹介、就職状況の説明とお願いなどについてそれぞれ話をしました。ほかに、元本学の教員であった森映雄氏(早稲田大学教授)も出席されており、全員和やかに旧交を温められておりました。

4年制昇格40周年ともなれば初期の卒業生もそろそろ定年を迎えられる方もいらっしゃる、幅広い分野であるいは企業のトップとして活躍の同窓生も多数いらっしゃいます。本学の学生の就職のことも心配していただき、会社の

人事部を紹介していただいたり、ご出席のOBの方に紹介していただいたり、とまことにありがたいことでありました。

来年度は同窓会の支部総会だけでなく全国レベルの同窓会を宮崎で開催される、とのこと。縁あって本学に学ばれた方たちが、その絆をいっそう強くされ、ますますのご発展とご健勝を願わずにはおれません。また、これからもこの会がいつまでも続きますことを祈念いたします。



サークル紹介

学友会中央委員会

委員長 小林 泰三

私達、学友会中央委員会は、皆が生き生きと過ごす事ができ、市大だけでなく下関市も活性化されるような環境作



りを目指し、日々活動しています。

現在、部員数は全学年合わせて約80人と多く、今では市大でも有数のサークルの一つまで成長しました。これも、市大生の学友会活動への関心が高まっている証拠だと思います。主な活動としては、学友会組織の充実を目的とした大学当局や学友会各団体との意見・情報交換、サークル活動を支援するための備品の充実、年間予算の検討などがあります。また、オープンキャンパス、クラスオリエンテーション、謝恩会なども担当しています。

私達は、最初にも言ったように、活性化された環境作りを目指しています。しかしこれは、皆さんの協力なしでは実現する事はできません。皆さん一人一人の力が必要なのです。ですから、皆さんも、個人としてでも良いし、サークルとしてでも良いので、何か大学を活性化させる事を行って下さい。共に大学を動かして行きましょう。学友会は市大生一人一人から成り立っているのですから。

よさこいサークル「震度10」

～まだまだ続く、震度10の快進撃！～

代表 大廣 能久

突然ですが、この顔(写真)を見て下さい！みなさんはこんないい顔をしている大学生を見たことがありますか？下関市立大学にはこんないい顔をした大学生がたくさんいることをまずはじめに知っておいてください。

去年、一昨年と下関を中心に活動してきたわけですが、今年は新たに多くの一年生を迎え、去年よりも一回り大きくなっちゃいました。そのうち下関市立大学と言えば、よさこいサークル「震度10」って言われるんじゃないかな？なんて一人で考えてドキドキしているところです。そんな中、県外では広島、熊本、県内では徳山などでグランプリ、準グランプリ等取らせていただきました。今年も私たち、よさこいサークル「震度10」はすごいですよ！

私たち、よさこいサークル「震度10」は大学の枠を超え、下関のさらなる活性化に向けて、これがよさこいだ！って

いう心意気を若い体に乗せてバシバシぶつかって行きますので、これからも御支援、御声援の程よろしくお願い致します。



「鯨大学」(教養総合講座) 終わる

下関市で第54回国際捕鯨委員会(IWC)が開催されたのにあわせて、本学では4月15日から12回にわたり教養総合講座「鯨大学」が開講された。本講座では、「鯨の種類や生態」「捕鯨の歴史」「鯨資源」「鯨肉の流通」「鯨食文化」「地域と鯨とのかかわり」「ホエールウォッチング事業と地域活性化」「鯨保護の必要性(NGO見解)」「IWCの現状(捕鯨国と反捕鯨国の立場)」といった連続講義を通して、鯨をめぐる幅広い教養的な知識を提供した。IWC開催といった話題性や捕鯨問題への関心の高まりからか、受講者は300人から400人で推移し、講座は盛況を博した。



この「鯨大学」の最終講義は、7月15日に、日本鯨類研究所の大隅清治理事長と近畿大学農学部の小野征一郎教授(水産経済学)を迎え、本学の濱田英嗣教授(水産経済学)を含めた三名によるパネルディスカッションの形式でおこなわれた。これまでの連続講義をふまえた総括討議は、マスコミの注目を浴び、翌7月16日、新聞各紙に掲載された。最終講義において小野教授は、「南極海で商業捕鯨が再開されても、現実的に捕鯨をするのは日本だけ。利益は世界に還元しないと、国際世論の支持は得られない」(『毎日』)とし、商業捕鯨の再開には積極的な国際貢献が必要であることを指摘した。濱田教授は、「IWCを機に下関は、クジラの街づくりを具体的に考える必要がある」(『中国』)とし、大隅理事長も、「IWCで国内外に下関がPRされた。調査捕鯨船団の母港化など、下関らしさを発揮することで、鯨の街として元気が出る。長門と連携し、昔の捕鯨と現代の捕鯨を結び付けた『鯨ベルト地帯』も構想しては」(『山口』)と下関の活性化に鯨が核となりうることを提案した。

最後に、この「鯨大学」をコーディネートした本学の山戸輝雄教授(哲学)は、この連続講座を振り返り、「地域文化としてだけでなく、海洋生態系における鯨の存在や外交上の鯨の位置づけなど、様々な側面から鯨について伝えることができたのではないか」(『朝日』)と語った。まさに、内容の濃い教養総合講座であった。

(文責・前教養総合企画委員・衛藤吉則)

第41回馬関祭りについて

今年も大学祭の季節になりました。今年は11/1(金)～11/4(月)の日程で実施すべく準備しています。

昨年は第40回という節目の年であることから、馬関祭を新たに生まれ変わらせることを目標とし、大学祭を行いました。そこで、今年度は昨年の気持ちを忘れずに、もう一度スタートラインに立ち馬関祭を新たに再出発させようという意味で、テーマを「41 Don!」としました。大学祭をより盛り上げるために、皆様お誘い合わせの上お越し下さい。たくさんの方々がいらっしゃることを心からお待ちしております。

一大学祭日程一

- ・11月1日(金) 前夜祭、ふく鍋
- ・11月2日(土) 演武会
- ・11月3日(日) 加茂周元監督の講演会
- ・11月4日(月) モンゴル800・スカイメイツコンサート

教職員異動一覧

新任教員

氏名	担当科目	前任	着任年月日
武井 満幹 講師	中国語	広島大学	14.10.1
朴 明根 研究員	中国語	青島大学	14.10.1

第49回関北インカレ春季大会結果報告

北九州・下関地区の18大学が参加し、16競技で熱戦を繰り広げた、第49回北九州・下関地区大学体育大会(通称、「関北インカレ」)春季大会の成績は次のようになりました。

今年度は、東亜大学が当番大学となり5月3日から7月14日までの期間実施されました。

大会運営等では大変お世話になりました。

競技種目	成 績	競技種目	成 績
1 準硬式野球	3位	9 バドミントン	男団 1回戦敗退 女団 1回戦敗退
2 硬式野球	男団 2回戦敗退 女団 準優勝	10 空 手 道	男団 1回戦敗退 男個型 ベスト16
3 ソフトテニス	男団 3位 女団 優 勝	11 ラ グ ビ ー	—
4 卓 球	男団 優 勝 女団 準優勝	12 剣 道	男団 1回戦敗退 女団 1回戦敗退
5 バレーボール	男 4位	女個 準優勝	
6 サ ッ カ ー	準優勝	13 柔 道	男団 予選1敗退
7 陸上競技	4位	14 弓 道	男団 3位 女団 4位
8 バスケットボール	男 準優勝		

行事記録(2002年6月～8月)

- 6月1日(土) 開学記念日
- 9日(日) 後援会総会
- 21日(金) 公務員ガイダンス
大学入試説明会
- 7月5日(金) 春学期(前期)試験時間割発表
- 16日(火) 春学期集中講義開始
- 16日(火) 夏季休業開始 8/31まで
春学期集中講義 9/1まで
- 18日(木) 山口県大学図書館協議会総会
- 26日(金) 関門共同研究会報告会
- 8月3日(土) オープンキャンパス2002
(大学院入試説明・研究発表)
- 8日(木) 東義大学校事務職員来学
- 19日(月) インターンシップ 8/31まで

編集後記

ある先生からのご助言を受け、創刊当時の『市大広報』に目を通して見た。市大の息づかいが伝わってきた。当委員会でも本学の活動をより生き生きと描きたいと考え、本号から「サークル紹介」のコーナーを新設した。次号以降、同窓会やゼミのコーナー等も考案中。(衛藤)